

## 巻頭言



# 一般社団法人となって5年目をむかえ

笹島 隆彦

(一社)寒地港湾技術研究センター 代表理事・理事長

寒地港湾技術研究センターは、平成25年4月に一般社団法人に移行し、会員皆様の支えもあり、今年で5年目をむかえています。

一般社団法人としての5年間を振り返ると、寒冷海域における港湾の技術開発や利活用を基本としながらも、その技術成果を漁港の整備に生かしたり、また、物流や商流の面から、港湾の利活用につながるであろう、空港の利活用などにも取り組んできました。地域社会の発展に寄与するという目的を達成するために、港湾という分野にとらわれない調査研究を進めてきております。

こうした実績を踏まえ、また、これからも地域からの要請にこたえるべく、幅広い視点からの取組を引き続き進めていくことで、当センターが北海道におけるシンクタンクの一つとし

て、貢献していきたいと考えています。

例えば、寒地港湾技術研究センターの最も重要な事業の一つとして自主調査研究事業がありますが、数年かけて単に成果をとりまとめるだけではなく、今後の国や地域の政策の糧に育てていくということも重要であると考えており、第一弾として、港湾管理者への成果の発信を開始しています。特に、テーマの選定は非常に重要ですので、会員の皆様、有識者、公的機関などとの連携と役割分担もしながら、皆様と一緒に今後の北海道を考えていく雰囲気づくりを模索し、寒地港湾技術研究センターの果たすべき役割を明確にしていきたいと考えています。

会員の皆様のご理解、ご協力、そして自由なご意見を切にお願いする次第です。



- 第1号  
離島観光客の入り込み構造の分析と制約要因への対応に関する調査研究  
— 奥尻島のケース —
- 第2号  
海洋深層水の多目的利用による地域振興方策に関する調査研究
- 第3号  
石狩湾新港を事例とした道産食品の国際物流戦略に関する調査研究
- 第4号  
港湾におけるイベントと地域活性化に関する調査研究
- 第5号  
中国市場等における酒類等道産食品の商流構築に向けた戦略に関する調査研究
- 第6号  
水海域における鋼構造物の腐食被害の概要と対策工法について
- 第7号  
ロシア極東3地域との技術交流に関する調査研究
- 第8号  
水産物陸上保管施設と高鮮度な船舶輸送に関する研究